

主は善き羊飼い BWV112

1 合唱

主はよき羊飼い わたしは守られて、  
たりないものはなく、満たされている。  
牧場に導かれ よき言葉なる  
緑の牧場に伏させたもう。

2 アリア・アルト

憩いのみぎわに導いて  
わが魂を生き返らせる。  
この水こそ聖なるも玉であり、  
私をうるおす。  
主は正しき道を歩ませ、  
たえず主の名によりて、  
その教えをまもらせる。

3 朗唱・バス

死の陰の谷を行く時も  
災いを恐れない。  
迫害と災い。患難が取り囲うとも  
あなたがそばにいましたもう。  
汝が杖と鞭 われをはげます。  
みことばにわが身を委ねまつらん。

4 二重唱 ソプラノ、テノール

主はわがためにうたげを備えたもう。  
敵どもをまえにうたげをそなえたもう。  
おそれを除き、心を強め  
わが頭に香油を注ぎたもう。  
喜びを満たす聖霊の香油を注ぎたもう。  
わが心の器を満たしてください。  
喜びの聖霊で満たしてください。

5. コラール

あわれみと善き業はわたしにともないきて、  
いかなるときも主の家にとどまろう。  
地の上でキリスト者と、死にて主イエスと  
共に住まわん。

1731年4月4日 復活後第2日曜

トマス教会就任前に作曲していた曲をカンタータに仕立て直したと推定される。

第2曲行の自筆総譜になされた多くの訂正が物語っている。

「コラール節をそのまま用いながら、編成、調整など工夫して変化と統一、調和のとれたカンタータに仕上げるバッハの手腕はみごとなものである。」(井形ちづる)

聴きどころ 3曲 聖書朗唱・バス

「死の陰の谷を行く時も災いを恐れない。」よき羊飼いは災いに会って死の陰をおもわせる

時にも、恐れないという詩編の言葉に工夫を凝らし嘆きのバス（ラメントバス）を作っている。